

健康

子どもの歯が折れたら

子どもが何かの拍子に転んで歯をぶつけると、折れたり、抜けてしまったりすることがある。親はつい慌ててしまいが、いくつかのポイントを押さえておけば、落ち着いて対処することができる。レオーネキッズデンタルクリニック(東京都荒川区)の萩原栄和院長に、子どもの歯が折れた場合の対処法や注意点、予防策について聞いた。

ポイントはいくつ

萩原院長によると、子どもの歯の外傷は、年代によって三つに分けられるという。最初は1歳半のつかまり立ちをして歩き始める時期。次いで、活動性が増す3〜5歳ごろ。そして、体育の授業や部活動のある小学校高学年以降だ。5歳頃までは顎の骨が柔らかく、何かにぶつけると、歯が抜けたり埋まってしまったりするケースが多いという。



対処法を知れば、いざというときも安心

第一に、転んだときに頭を打っていることがあるので、嘔吐(おうと)があれば小児科や脳外科への受診を優先する。第三に、歯科医院への受診は60分以上が望ましい。ただし、「元に戻せるかどうかは、歯の根の周りにある歯根膜の保存状態に大きく左右されるので、洗浄は歯科医師に任せてください」と萩原院長。幼稚園や保育所、学校によっては、歯の保存液が常備されている所もあるという。牛乳や保存液が無い場合は、コシタクトレンズの保存液や水道水などで保存する方法もある。

押さえておきたい対処法のポイントは三つ。第一に、折れた歯は乾燥を防ぐため、洗わずにすぐに牛乳の中に入れる。「元に戻せるかどうかは、歯の根の周りには歯根膜の保存状態に大きく左右されるので、洗浄は歯科医師に任せてください」と萩原院長。幼稚園や保育所、学校によっては、歯の保存液が常備されている所もあるという。牛乳や保存液が無い場合は、コシタクトレンズの保存液や水道水などで保存する方法もある。

食事中は椅子の上に立たせない、外に出る際は、サンダルではなくきちんとした靴を履かせ、未就学児であれば手をつなぐなどの配慮もしたい。「生活の中で、子どもが転ばない工夫がどれだけできるかで、歯の外傷をかなり防げるはずですよ」と萩原院長は、緊急時に備え、日本小児歯科学会のホームページ(<http://www.jspd.or.jp>)を参考に、小児歯科治療の専門医や認定医がいる歯科医院を、普段からかかりつけにしておくことを勧めている。

レオーネキッズデンタルクリニックの所在地は、〒116-0003 東京都荒川区南千住1-22-2 電話03(3800)10648。

◆先天性心疾患は心房細動リスク
先天的に心疾患のある患者は心房細動を発症するリスクが高い、とスウェーデンの研究グループが発表した。研究グループは、1970年〜93年生まれで先天性心疾患がある患者2万1982人と同疾患のない21万9816人について、心房

加齢に伴う筋力

加齢に伴い筋肉量が減り、筋力が低下する「サルコペニア」は、痛みなどの自覚症状はないが、進行すると寝たきりになる可能性もある。大阪労災病院(堺市)リハビリテーション科の夏梅隆全部長に、自己診断の方法と予防について聞いた。

歩行速度と握力確認

下半身の筋力が弱ると、歩くスピードが遅くなるばかりでなく、歩行が困難になる。年のせいとほっておくと転倒しやすくなり、骨折から寝たきりになるリスクもある。また、喉の筋肉が衰えると、嚥下(えんげ)機能が低下して飲食のたびにむせやすくなり、誤嚥性肺炎を起しやすいことになる。年とともに痩せてきたという場合は、全身の筋肉量の減少が考えられるという。「サルコペニアは、筋肉の状

悪性度の高い皮膚がん

皮膚の色素細胞ががん化したメラノーマ(悪性黒色腫)。かつては抗がん剤が効きにくいがんといわれ、手術が治療の主体だったが、2014年以降に登場した免疫チェックポイント阻害薬などにより薬物治療の成績は向上している。がん・感染症センター都立駒込病院(東京都文京区)皮膚腫瘍科の吉野公二部長に、病気の特徴や治療法について聞いた。

足の裏のほくろに注意

メラノーマの国内の推計患者数は約4000人。50代から増加し、60〜70代に多く発症するが、30代に発症する人もいる。発症原因は紫外線のほか、まれに外傷などによるものもあり、四つの病型(結節型、末端黒子型、表在拡大型、悪性黒子

メラノーマの特徴と治療法

◆メラノーマのタイプ

(発生しやすい部位や形状などにより4種類の病型がある)

①結節型

- 40〜50代に発生することが多く、がんの進行が速い
- 全身のあらゆる部位に発生する

②末端黒子型

- 日本人に最も多いタイプで、40〜50歳代で多く発症する
- 足の裏、手のひら、手足の爪などにできやすい

③表在拡大型

- 白人に多いタイプだが、日本人でも増えている
- 全身のあらゆる部位に発生する

④悪性黒子型

- ゆっくり進行する
- 顔にできやすく、高齢者に多い

型)に分類される。吉野部長は「日本人に多いのは末端黒子型で、足の裏にできやすいのが特徴です。転移のない早期に治療

すれば大部分は治りますが、他の臓器に転移している進行期になると生存率は低くなります」と話す。

メラノーマの進行は、

がんの厚さと表面の潰瘍の有無、リンパ節あるいは他の部位や内臓に転移しているかどうかで、I〜IV期に分類される。がんの厚さにかかわらず、原発巣のみにとどまっていればI、II期。III期はリンパ節などに転移があるもので、内臓に転移しているIV期となる。

薬物治療が大きく進歩

治療は、がんを手術で切除することが優先される。だが、他の臓器に転移して、切除が不可能なIV期まで進行すると、薬物療法が主体となる。BRAFと

◆

という遺伝子に変異がある場合は、BRAF阻害薬とMEK阻害薬の併用などを用いるが、変異がなければ、ニボルマブ、ペムブロシズマブ、イピリムマブ

◆

がん・感染症センター がん診療部 所在地は、〒116-0003 東京都文京区 8677 電話03(3800)10648

第二に、転んだときに頭を打っていることがあるので、嘔吐(おうと)があれば小児科や脳外科への受診を優先する。第三に、歯科医院への受診は60分以内が望ましい。ただし、「元に戻せるのは、原則として永久歯です。乳歯の場合は、後の永久歯に影響が及ぶのと、5歳以降は上顎が発達する時期なので、そのままにすることが大半です」と萩原院長は説明する。

生活環境の見直しを
歯の外傷を予防するために、萩原院長は「子どもが転ばないよう、生活環境を見直ししてほしい」と訴える。例えば、高さの違うダイニングテーブルとこたつを一緒に置くなど、子どもの視線が散漫になるような家具の配置は避ける。

食事中は椅子の上に立たせない、外に出る際は、サンダルではなくきちんとした靴を履かせ、未就学児であれば手をつなぐなどの配慮もしたい。「生活の中で、子どもが転ばない工夫がどれだけできるかで、歯の外傷をかなり防げるはずですよ」

萩原院長は、緊急時に備え、日本小児歯科学会のホームページ(<http://www.jspd.or.jp>)を参考に、小児歯科治療の専門医や認定医がいる歯科医院を、普段からかかりつけにしておくことを勧めている。

レオーネキッズデンタルクリニックの所在地は、〒116-0003 東京都荒川区南十住1-2の2 電話03(3880-1)0648。

加齢に伴い筋肉量が減り、筋力が低下する「サルコペニア」は、痛みなどの自覚症状はないが、進行すると寝たきりになる可能性もある。大阪労災病院(堺市)リハビリテーション科の夏梅隆全部長に、自己診断の方法と予防について聞いた。

歩行速度と握力確認
下半身の筋力が弱ると、歩くスピードが遅くなるばかりでなく、歩行が困難になる。年のせいでほつておくと転倒しやすくなり、骨折から寝たきりになるリスクもある。また、喉の筋肉が衰えると、嚥下(えんげ)機能が低下して飲食のたびにむせやすくなり、誤嚥性肺炎を起しやすくなる。年とともに痩せてきたという場合は、全身の筋肉量の減少が考えられるという。

「サルコペニアは、筋肉の状況から自分でチェックできま

夏梅部長は「筋肉を作り維持するには、タンパク質が必要で

28人が心房細動を発生。解析の結果、先天性心疾患患者が心房細動を発生するリスクは同疾患のない人の約22倍だった。

その結果、妊娠中にコルヒチンを服用しても流産の件数は増加せず、先天異常との関連性も確認されなかった。また、妊娠中にコルヒチンを服用していた女性から生まれた子どもの出生体重と在胎週数は、コルヒチンを服用しなかった女性と差がなかった。

加齢に伴う筋力低下「サルコペニア」

加齢に伴い筋肉量が減り、筋力が低下する「サルコペニア」は、痛みなどの自覚症状はないが、進行すると寝たきりになる可能性もある。大阪労災病院(堺市)リハビリテーション科の夏梅隆全部長に、自己診断の方法と予防について聞いた。

夏梅部長は「筋肉を作り維持するには、タンパク質が必要で

運動、自己診断で寝たきり予防

夏梅部長は「筋肉を作り維持するには、タンパク質が必要で

夏梅部長は「筋肉を作り維持するには、タンパク質が必要で

タンパク質が必要

夏梅部長は「筋肉を作り維持するには、タンパク質が必要で

夏梅部長は「筋肉を作り維持するには、タンパク質が必要で

阻害薬で治療する。

吉野部長は「当院では従来、IV期の唯一の治療薬だったタカ

吉野部長は「当院では従来、IV期の唯一の治療薬だったタカ

がん10年生存率が改善

国立がん研究センターの発表によると、2001～04年にがんが診断されて、治療を受けた患者の10年生存率は55.5%で、前回調査(00～03年に診断、治療)よりも1.3%改善したことが分かった。

調査は、全国がんセンター協議会加盟の20施設でがんが診断された5～94歳の患者5万7147人を対象に実施。18種類のがん別にも10年生存率を算出した。

がん10年生存率が改善

国立がん研究センターの発表によると、2001～04年にがんが診断されて、治療を受けた患者の10年生存率は55.5%で、前回調査(00～03年に診断、治療)よりも1.3%改善したことが分かった。

調査は、全国がんセンター協議会加盟の20施設でがんが診断された5～94歳の患者5万7147人を対象に実施。18種類のがん別にも10年生存率を算出した。

がん10年生存率が改善

国立がん研究センターの発表によると、2001～04年にがんが診断されて、治療を受けた患者の10年生存率は55.5%で、前回調査(00～03年に診断、治療)よりも1.3%改善したことが分かった。

調査は、全国がんセンター協議会加盟の20施設でがんが診断された5～94歳の患者5万7147人を対象に実施。18種類のがん別にも10年生存率を算出した。

帯広耳鼻咽喉科
院長 山川 聡 相談役 山川 薫
帯広市西1条南12丁目 当日のご予約はこちら ☎(0155)22-1928 HP <http://www.obihiro-ent.jp>

★当院
診療時間
月・火・木・金 9:00～12:00 14:00～17:00
水・土 9:00～12:00 <休診> 日・祝
駐車場完備しております

皮膚科・小児皮膚科・美容皮膚科・各種レーザー治療
みなみ町皮膚科クリニック
帯広市西18条南33丁目2-1 回有り TEL0155-47-0880
診療時間 月・火・木・金 9:00～17:30(休診日12:30～14:00)
水・土 9:00～12:30 休診/日曜、祝日、第5土曜日

